

資料でたどる 古典芸能の舞台 神戸

会期: 令和3年12月11日(土)～12月26日(日) 休園日: 12月16日(木)・23日(木)

時間: 午前10時～午後4時

会場: 神戸市立須磨離宮公園内 和室

令和3年、神戸女子大学古典芸能研究センターは開設20周年を迎えました。それを記念して、神戸市立須磨離宮公園において、一年を通じて季節ごとに所蔵品を中心とした資料展を開催します。

3回目となる秋の展示は、古典芸能にゆかりのある神戸の名所旧跡をとりあげ、江戸時代の名所図会類の記事や現在の様子などを、その地にまつわる芸能とあわせて、パネルと資料でわかりやすく紹介します。神戸の地は、万葉のいにしへの時代から、多くの文学作品や古典芸能に登場します。本学および古典芸能研究センターでも神戸ゆかりの典籍を数多く所蔵しています。それらの資料と共に、今回は生田神社のご協力のもと、同神社所蔵の「源平合戦屏風」を出品します。この機会にじっくりとご覧ください。

〔展示目録〕

* 所蔵元の記載のないものは、神戸女子大学古典芸能研究センター蔵。
(文庫・特殊コレクション名のみ注記。) パネルは除く。

1 「源平合戦屏風」

生田神社蔵 (* 解説別紙)

2 『田安家旧蔵版本番外謡曲集 (四百番)』 「鱗形・求塚・現在江口・六代・鶴若」

小本1冊 (五番綴、全20冊) 元禄2年 (1689) 林和泉掾刊 志水文庫蔵

定番曲の内外二百番には含まれない、番外の謡本。貞享3年 (1686) 刊の三百番本 (12参照) に続いて刊行され、装幀・版式も似る。当時の番外謡本刊行は、將軍綱吉・次代家宣の稀曲好みの反映とされている。

3 「仏母摩耶山切利天上寺 (ぶつもまやさんとうりてんじょうじ) 図」 『摂津名所図会』 卷7)

大本袋綴1冊 (9巻12冊の内) 秋里籬島著 竹原春朝斎画 寛政8～10年 (1796～98) 大坂 森本太助他刊
神戸女子大学図書館蔵

天上寺は「天竺法道仙人の創する所」と言われ、秘仏の本尊十一面観音は、三十三年に一度の開帳で知られる。『摂津名所図会』は摂津国の名所旧跡などを紹介した旅行案内書。

4 『首書伊勢』 『伊勢物語／絵入読曲』 いせものがたりえいりよみくせ)

半紙本袋綴 1冊 (全3巻3冊の内) 貞享2年 (1685) 大文字屋・西村七郎衛門刊 志水文庫蔵

すでに刊行されていた絵入り『伊勢物語』の本文の上部に簡潔な注を加えた書。吉田定吉画。展示は、八十七段の布引滝を訪れた部分の挿絵。

5 『平松家旧蔵福王流番外謡曲八百十番本』

「東夷・鼬殿火・吹上・北白川・宇賀神・日光山・鎌田・布引滝・井手詣曾我・伶倫」

半紙本袋綴 十番綴1冊 (全67冊の内) 伊藤正義文庫蔵

ワキ方福王家の高弟であった平松善右衛門 (文政11年9月写) の番外謡本。「布引滝」は稀曲で、上演された様子はなく、謡として楽しまれたらしい。

6 『源平布引滝』

半紙本袋綴 1冊 並木千柳・三好松洛作 江戸中期刊 四世竹本相生太夫旧蔵資料

寛延2年 (1749) 大坂竹本座初演の浄瑠璃正本。初段、清盛の命で難波六郎が布引滝の滝壺に飛び込むくだりが題名の由来となっている。

* [参考展示] 床本「鳥羽離宮松波琵琶巴段」五行稽古本 大阪 竹中清助刊 (朱譜書入、書込有)

7 「伊勢物語かるた」 八十七段

3組6枚 (絵札208枚、字札209枚の内) 写 江戸前期作カ 神戸女子大学図書館蔵

『伊勢物語』所収の和歌すべてを用い、それぞれの歌の上の句を絵入りの読み札に、下の句を字札 (取り札) に仕立てたカルタ。展示は八十七段の和歌3首。

8 「生田神社」(『撰津名所図会』巻8)

大本袋綴1冊(9巻9冊(第8/9/11冊欠)の内) 寛政8~10年(1796~98) 大坂 森本太助他刊 神戸女子大学図書館森修文庫蔵、大本袋綴1冊(3の解説参照) 神戸女子大学図書館蔵

『撰津名所図会』は、江戸中後期に出版された撰津国の旅行案内書。巻8「八部郡」(やたべのこおり)の冊に、「生田神社」の詳細な説明が、境内の全景を描いた俯瞰図とともに記載されている。

9 『堀池宗叱識語本』「ゑひらの梅」

折本 1帖(全47帖の内) 室町末期・16世紀写 伊藤正義文庫蔵

室町末期に活躍した京都の素人能役者堀池宗叱(ほりけそうしつ)の謡本。表紙には、曲の内容にちなんだ金銀泥絵が描かれている。展示は能《箴(えびら)》の謡本で、梶原景季が梅の枝を箴に挿して戦ったことから、表紙に梅の木を描く。

10 『能狂言画帖』「箴(えびら)」

折本 1冊 明治41年(1908)写 吉田文庫蔵

能・狂言全19曲の絵が交互に描かれた画集。所収曲は《三番叟・老松・靱猿・船弁慶・仏師・道成寺・秀句傘・松風・鎌腹・安宅・空腕・俊寛・武悪・望月・米市・弱法師・伯母ケ酒・箴・貫翫》。展示は、能《箴》の後シテ梶原景季を描いたもの。若武者姿で背に梅花の枝を挿し、「平太(へいだ)」の面をつけている。「平太」は日焼けして精悍な板東武者らしい風貌を表す。

11 「有馬入湯客座敷」(『撰津名所図会』巻9)

大本袋綴1冊(8の解説参照)、神戸女子大学図書館森修文庫蔵

有馬温泉の各所の様子を描く記事とともに掲載する挿絵。有馬の湯女は「お藤」に代表され、流行歌にもさまざまに歌われてきた。

12 『田安家旧蔵版本番外謡曲集(三百番)』「太子・廣基・侍従重衡・聳入自然居士・鼓瀧」

小本1冊(五番綴、全20冊) 貞享3年(1686) 林和泉掾刊 志水文庫蔵

定番の上演曲である内外二百番には含まれない、番外の謡本。当時の将軍綱吉・次成家宣の稀曲好みが謡本に反映したと言われている。節付法やその精粗が曲によって異なる点が特徴。

13 『絵入謡本』「道盛」※展示キャプションは「通盛」

列帖装 1帖(全12帖の内) 江戸前期・17世紀写

謡曲の詞章に彩色の挿絵を組み合わせた豪華な謡本。表紙は、紺地金砂子切箔散らし金泥霞引草木描絵。左肩に曲名を墨書した金泥下絵題簽が貼付される。内題はなく、片面7行(《三輪》のみ6行)で無章句の本文を記す。「大正十三年甲子七月十日/前田家於本郷邸内御弘道具ノ/節求之」の墨書貼り紙があり、もとは前田侯爵家旧蔵と推測される。所収曲は《養老・通盛・清経・三輪・松風・阿漕・葵上・盛久・蟻通・邯鄲・橋弁慶・殺生石》。

展示は、能《通盛》の前場で、鳴門で僧たちが読経し平家一門を吊っていると、沖から漁翁夫婦(前シテ・前ツレ)が舟を漕ぎ寄せ聴聞する場面を描く。

14 『謡曲画誌』(うたいのえほん)巻6「知章」(ともあきら)

半紙本袋綴 1冊(全10巻3冊の内) 中村三近子編著 橘守国画 享保20年(1735) 大坂 毛利田庄太郎刊 伊藤正義文庫蔵

全50曲の謡曲の概説書。初番目物から五番目物の曲を1冊あたり5曲選び、各曲の解説を挿絵とともに収録する。『謡曲画誌』は改題本(『謡訓蒙図会』)も含め、京・大坂・江戸で版を重ね、広く普及した。展示は、巻6所収の「知章」の解説の挿絵。敵に襲われそうになった平知盛を息子の知章がかばい一度は敵を倒すが、奮戦空しく加勢の童武者に首を討たれてしまい、その間に知盛が味方の船に逃れる場面を描く。

15 「兵庫津」挿絵(『兵庫名所記』)

半紙本袋綴 2巻1冊 植田下省子著 宝永7年(1710) 兵庫津 菊屋新右衛門刊 神戸女子大学図書館蔵

兵庫を中心とした、神崎から境川までの名所を解説した書。各所解説の冒頭に簡略な地図を載せる。展示は、下巻の挿絵「兵庫、和田周辺大概図」。築島寺の説明は上巻冒頭に見える。

16 『平家物語』(巻7「経正都落」)

大本袋綴 1冊(全11巻11冊[巻6欠]の内) 宝永7年(1710) 大坂 河内屋喜兵衛刊 志水文庫蔵

江戸時代に出版された『平家物語』のうち、最も流布した系統の本で、平易な平仮名中心の本文に挿絵が入る。刷題簽「新板絵入平家物語」。展示の挿絵は、平経正が都落ちの際に仁和寺の守覚法親王の元を訪れ、先年下賜された琵琶の名器「青山(せいざん)」を返上する場面を描く。経正は敦盛の兄で、平清盛の甥に当たる。

17 『平家物語』(巻7「忠度都落」)

大本袋綴 1冊(全11巻11冊[巻1欠]の内) 享保12年(1727) 京都 村上勘兵衛刊 志水文庫蔵

江戸時代に出版された『平家物語』のうち、最も流布した系統の本で、平易な平仮名中心の本文に挿絵が入る。刷題簽「改正絵入平家物語」。展示の挿絵は、都落ちの際に平忠度が和歌の師である藤原俊成の元を訪れ、勅撰和

歌集（千載集）に入集することを願い、自詠の和歌を収めた巻物を託す場面を描く。忠度の和歌は『千載和歌集』に「読人知らず」として入れられた。忠度は平清盛の末弟。

18『堀池宗叱識語本』「短冊たゝのり」

折本 1帖（全47帖の内） 室町末期・16世紀写 伊藤正義庫蔵

展示は能《忠度》の謡本で、表紙に松林と網代が続く海浜の風景を描く。旅の僧（ワキ）が老人（前シテ・忠度の化身）に出会う須磨の浦をイメージしたものか。『堀池宗叱識語本』については、9「ゑひらの梅」の解説参照。

19「大五輪石塔」（『播磨名所巡覧図会』巻2）

大本袋綴 1冊（5巻5冊の内） 村上石田著 中井藍江画 享和3年（1803）跋 大坂 河内屋太助刊
神戸女子大学図書館蔵

『播磨名所巡覧図会』は、江戸中後期に制作された大坂から赤穂までの旅行案内書。巻2「大五輪石塔」の項に、「俗に敦盛の石塔と云、三の谷の間往還にあり」と、敦盛を祀る石塔を挿絵とともに紹介する。

20『平家物語』（巻9「敦盛最期」）

大本袋綴 1冊（全11巻11冊〔巻6欠〕の内） 宝永7年（1710）大坂 河内屋喜兵衛刊 志水文庫蔵

宝永7年版『平家物語』については、16「経正都落」の解説参照。展示の挿絵は、一ノ谷合戦において平家方が船で敗走する中、一人取り残された平敦盛が追いつこうと海に入ったところ、源氏の武将熊谷直実に見つかり呼び返される場面を描く。その後、直実は年若い美少年の敦盛を泣く泣く討ち取り、自身は出家へ道を歩み始める。

21『小敦盛』

【12月の資料】

横本袋綴 1冊（下冊欠） 江戸前期刊 志水文庫蔵

御伽草子『小敦盛』の丹緑本。一ノ谷の合戦は多くの悲劇を生み出したが、その中でもとりわけ有名なのが、弱冠17歳（16歳とも）の笛の名手平敦盛を、源氏方の武将熊谷直実が心ならずも討ち取った逸話である。御伽草子『小敦盛』はその後日談に当たり、敦盛には一子を設けた妻がおり、法然上人に養育されたその男児が、賀茂明神の夢想によって生田を訪ね、夢の中で父敦盛の亡霊と対面するというストーリーが展開する。御伽草子『小敦盛』は、敦盛の最期と直実の出家を物語の前半に持つ古絵巻系と、その部分を欠く渋川版御伽草子系の二系統に大きく分かれるが、本資料は後者の渋川版御伽草子の同作と同じ板木を用い、丹・緑・黄・銀などで彩色した丹緑本である。紺地銀泥表紙の中央に「こあつもり 上」の刷題簽、見返しには銀箔を散らした、全体に豪華な作りの本となっている。御伽草子『小敦盛』は金春禅鳳作の能《生田敦盛》とほぼ同内容であり、16世紀初には後日談の原話が形成されていたと推測されている。また、同じく後日談を扱った作品に古浄瑠璃『こあつもり』がある。

22『堀池宗叱識語本』「あつもり」

折本 1帖（全47帖の内） 室町末期・16世紀写 伊藤正義文庫蔵

展示は能《敦盛》の謡本で、前場に草刈り男が出ることから、表紙に春の野原の景観を描く。『堀池宗叱識語本』については、9「ゑひらの梅」の解説参照。

23『一谷嫩軍記（いちのたにふたばぐんき）』

半紙本袋綴 1冊 大坂 西沢九左衛門・江戸 鱗形屋孫兵衛刊 志水文庫蔵

宝暦元年（1751）大坂豊竹座初演の浄瑠璃正本。並木宗輔等6名合作。熊谷直実と平敦盛、岡部六弥太と平忠度の二つの物語を中心に展開する。一ノ谷合戦で敦盛の代わりに我が子小次郎の首を打った直実が、義経の前に首を差し出す三段目の「熊谷陣屋」が名高い。

24『絵入謡本』「松風」

列帖装 1帖（全12帖の内） 江戸前期・17世紀写

『絵入謡本』については、13「通盛」の解説参照。展示は、能《松風》の前場で、旅の僧（ワキ）が須磨の浦を訪れると、2人の若い海人が現れ、月夜をめでながら潮を汲む場面を描く。

25「須磨之浦図」（『摂津名所図会』巻8）

大本袋綴 1冊（9巻12冊の内） 神戸女子大学図書館蔵（3の解説参照）

「須磨里」の項の説明前に載る須磨浦の挿絵。海辺にたたずむ貴公子と二人の娘は、能「松風」の在原行平と松風・村雨である。『摂津名所図会』は摂津の旅行案内書。

26『堀池宗叱識語本』「松風むら雨」

折本 1帖（全47帖の内） 室町末期・16世紀写 伊藤正義文庫蔵

展示は能《松風》の謡本で、松風・村雨二人の墓標である松の絵が描かれている。「松風村雨」は古称。『堀池宗叱識語本』については、9「ゑひらの梅」の解説参照。

27「源氏物語かるた」須磨巻

1組2枚（全108枚：読札・取札54枚の内） 写 彩色 江戸期 神戸女子大学図書館蔵

「源氏物語香図引歌」の趣向によるかるた。『源氏物語』各巻の代表歌（代表的な場面や巻名にちなむ和歌）

に関連する絵を添え、源氏香の文様を付す。絵は巻名や内容にちなむ図様の趣意絵で、この和歌の上の句に絵を添えて読み札に、下の句を取り札としている。

28 「伊勢物語かるた」百十二段

1組2枚（絵札208枚、字札209枚の内） 写 江戸前期作カ 神戸女子大学図書館蔵

『伊勢物語』所収の全和歌の上の句を絵入りの読み札に、下の句を字札（取り札）に仕立てたかるた。展示は百十二段の歌。この段は『古今和歌集』恋四の708番歌（題知らず・読人知らず）「須磨の海士の塩焼く煙風をいたみ思はぬ方にたなびきにけり」を使っている。

29 『おさな源氏』須磨巻

大本袋綴1冊（全10冊の内）野々口立圃^{りゅうほ}著 寛文12年（1672）松会版 志水文庫蔵

俳諧師の野々口立圃による幼少婦女子向け源氏物語梗概書（ダイジェスト版）。『源氏』各巻の梗概に挿絵を添える。本書は著者没後の寛文12年（1672）に、江戸で菱川師宣（?～1694）の挿絵で刊行された異版本。

30 「村上帝霊跡」（『播磨名所巡覧図会』巻2）

大本袋綴1冊（5巻5冊の内） 秦（村上）石田編 中井藍江画 文化元年（1804）大坂 塩屋忠兵衛他刊 神戸女子大学図書館森修文庫蔵

巻2「須磨」の項の中の挿絵。「《絃上（げんじょう）》といふ謡曲の趣を諺にいひ伝へり」とする。『播磨名所巡覧図会』は大坂から赤穂までの地名や旧跡の由来を載せた地誌（一種の旅行案内）。

31 「摂州須磨浦一ノ谷真景細見」

木版刷 一枚物 神戸女子大学図書館蔵

海側から眺めた江戸時代の須磨の風景を描いた木版画。真景図とは、実際に景色を観察して描かれたもの。須磨寺の伽藍を中心に、西は敦盛塚まで、道中の名所を描く。観光土産として作られたものとされている。

32 新板大芝居鳥羽画姿飛廻双六（しんばんおおしばいとばえすがたとびまわりすごろく）

一枚摺 江戸後期刊 志水文庫蔵

鳥羽絵風の絵で、歌舞伎の場面が18図描かれた双六。振り始めは『本朝廿四孝（ほんちょうにじゅうしこう）』で、上がりは『一谷嫩軍記（いちのたにふたばぐんき）』となっている。絵師の清谷（せいこく）は、江戸後期の京都で役者絵を描いた浮世絵師。版元は「京一條智恵／光院西入／平井板」とある。鳥羽絵は、江戸時代に流行した滑稽な戯画で、手足が長く、目は黒丸で簡略化され、口が大きく描かれるのが特徴。

33 「平敦盛図」 木版色摺 一枚物 志水文庫蔵

旧蔵者（信多純一本学名誉教授）のメモによると、行燈絵であるらしい。一の谷の合戦で、馬に乗り須磨の海に入った敦盛が、振り返っている図。おそらく熊谷次郎直実の呼びかけに応じた瞬間であろう。

34 『市川鯉三郎「ひらかな盛衰記」梅枝の図』

一枚摺 江戸後期 志水文庫蔵

歌舞伎『ひらかな盛衰記』の梅ケ枝を演じる市川鯉三郎の役者絵。梅ケ枝は、梶原源太景季の愛人千鳥が、遊女になった時の名。源太の出陣に必要な準備金を用意するため、撞くと現世では富を得るが、来世では無間地獄に堕ちるという「無間の鐘」に倣って、手水鉢を打つ場面。梅ケ枝の名は、一ノ谷合戦において景季が簾に梅の枝を挿して戦った逸話に拠る。市川鯉三郎は、江戸後期に上方と江戸で活躍した3代目叶雛助（1812～1847）の前名とみられる。

35 能 中啓「平家修羅扇 立浪日輪図」

能で使う扇「中啓」の図柄は役柄に応じて決まっており、修羅能で平家の武将が主人公の時は、波濤に入り日の描かれた平家修羅扇を持つ。平家は源平の戦の負けたので、この扇は「負修羅扇」とも呼ばれている。

36 能楽蒔絵膳「籠（えびら）」

製作年不明 黒漆塗 金・銀研出蒔絵 色漆 1客

能・狂言の演目（能14曲・狂言6曲）を漆絵で描いた膳。展示品は能《籠》で、後場で主人公の梶原景季が登場している場面を描く。

37 能面 「孫次郎（まごじろう）」 個人蔵

女性が主役の能（三番目物）で使う、豊麗濃艶な若い女の面。金剛座大夫の孫次郎が、美しかった亡妻の面影をしのびながら打ったと伝えられており、シテ方金剛流では代表的な女面とされている。《松風》にも用いられる。

38 能面 「十六（じゅうろく）」

平敦盛の容貌をモデルとした能面。八の字の作り眉にお歯黒で染めた上歯をのぞかせる、可憐な美少年の造形。能面「敦盛」と互換性が高く、能《敦盛》や《生田敦盛》などで使用する。敦盛は、弱冠16歳（17歳とも）で熊谷直実によって須磨の海辺で討たれた平家の公達で、笛の名手。